

11

観光交通施策

施策 7

観光客が集中するエリアでの交通対策

- 各種駐車場の有効活用の検討
- 回遊性を高める環境の整備
- 道の駅等を基点とした周遊交通の検討
- 主要観光地への自動車アクセス向上

施策 8

観光に使いやすい公共交通サービスの提供

- 路線バス・鉄道の利用促進
- 函館圏への誘客(函館圏の通過を回避)
- キャッシュレス決済の導入推進
- 目的地への円滑な移動を支える交通インフォメーション機能の強化
- 移動のバリアフリー化
- 公共交通案内所の機能充実

施策 9

道路・鉄路・空路・海路の連携強化による観光ネットワークの整備

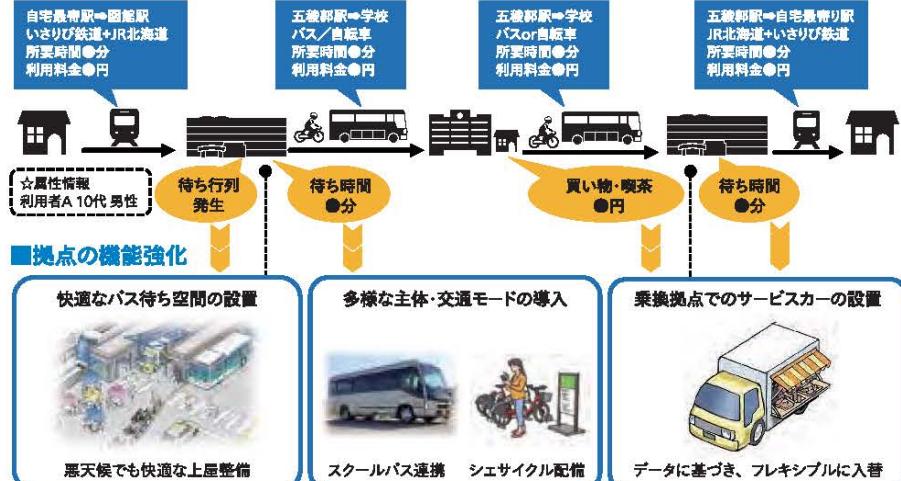
- 航空路線拡大に伴う函館空港の機能強化
- 航空路線拡大に伴う函館空港のアクセス強化
- 様々なクルーズ船誘致の推進
- 多様な交通モードとサイクリングの連携

MaaS のイメージ

MaaS (マース: Mobility as a Service) とは、複数の交通機関のサービスを一つのサービスとして捉える考え方。

具体的には、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス

MaaS によるデータ取得

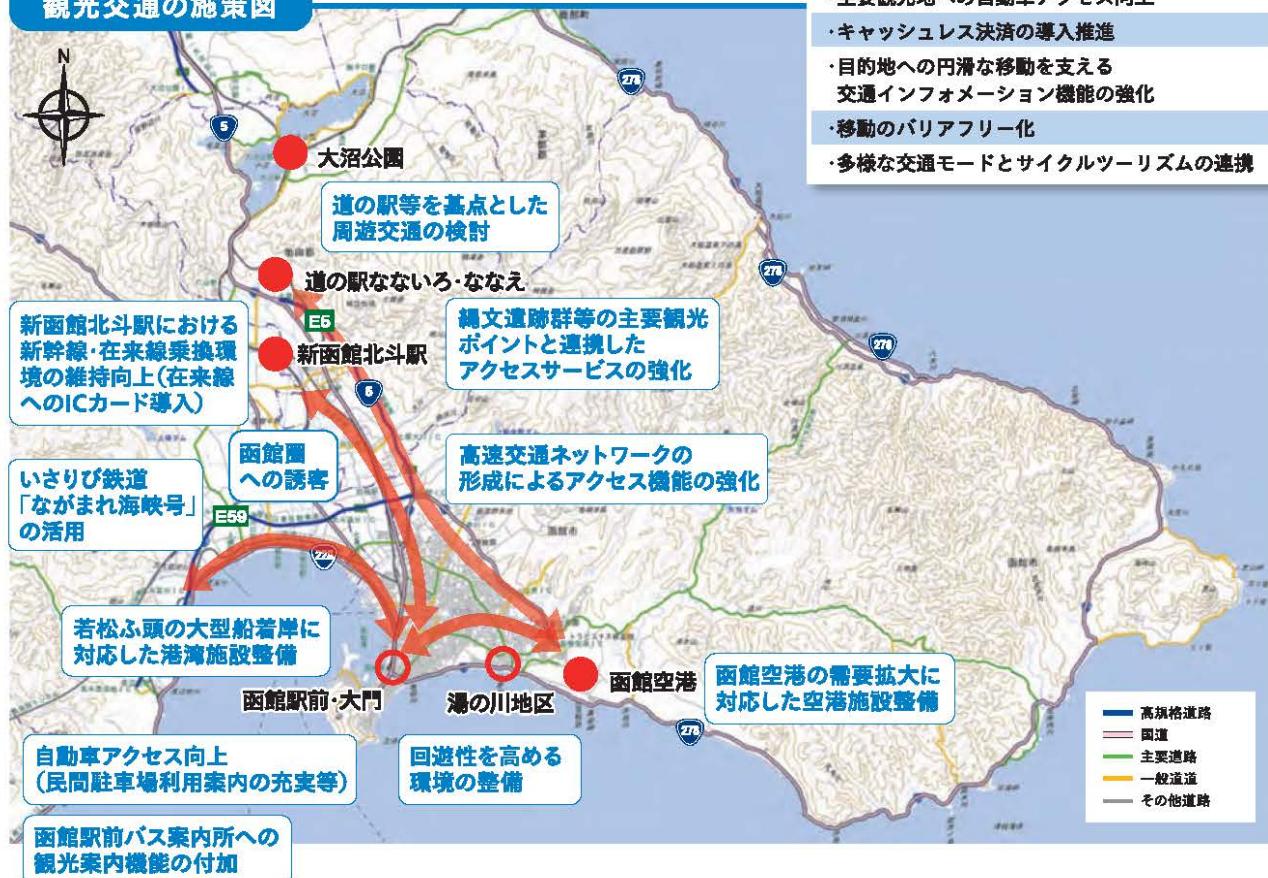


サイクルバスのイメージ



資料：函館バス株式会社

観光交通の施策図



12

避難交通・受援(用語)交通施策

施策 10

迅速な避難に資する道路網の確保

- 津波浸水被害に対応した道路の整備
- 無電柱化の推進

施策 11

災害時緊急輸送道路ネットワークの強化

- 緊急輸送道路・高規格道路の整備
- 隨時更新される地域防災計画(各市町)、
国土強靭化地域計画(各市町)と連携(避難道路等の整備等)

施策 12

道の駅の有効活用

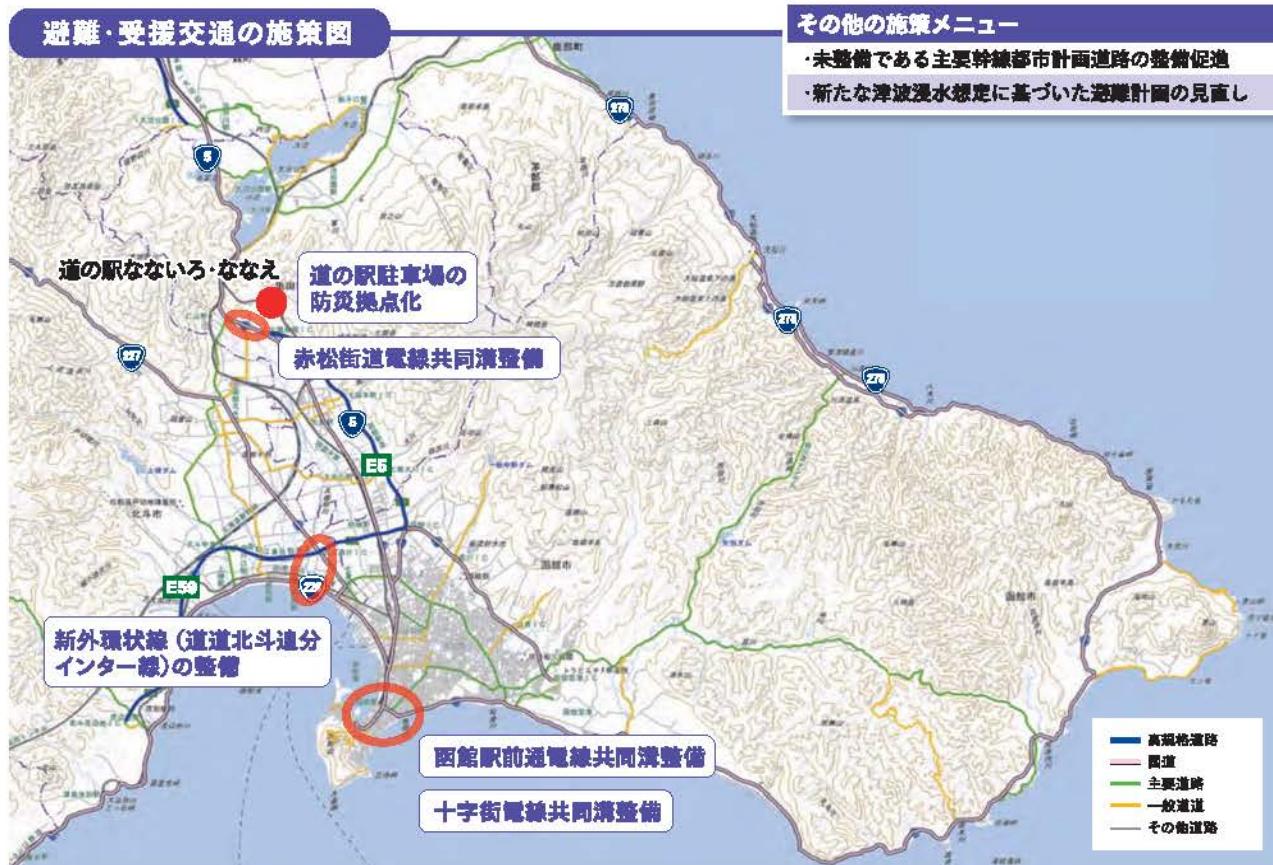
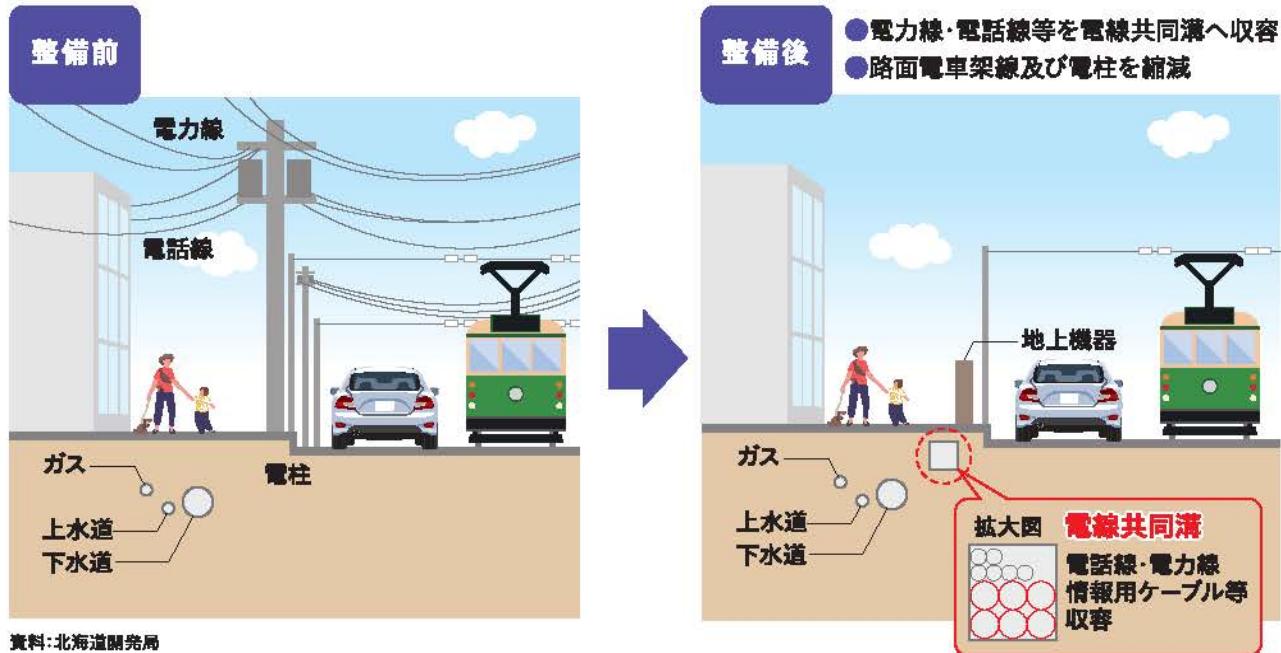
- 道の駅駐車場の防災拠点化

道の駅 なないろ・ななえ



資料:七飯町

電線共同溝(無電柱化)のイメージ



13

都市交通マスタープランの効果

期待される効果

都市交通マスタープランが実現することによって、将来、令和22年（2040年）の函館圏の活力や安全・安心の向上、地球環境の改善などの効果が期待されます。

活気と賑わい

①拠点の重要性が高まることが期待されます【賑わい向上】

⇒居住誘導を行うことで、都市機能誘導区域間（函館駅前・五稜郭・美原周辺）において公共交通の利用が確保されます。

快適なまち

②自動車以外の手段による行動の増加が期待されます【便利さ向上】

⇒居住誘導を行うことで、公共交通の分担割合が高くなります。

③道路交通混雑の緩和が期待されます【混雑緩和】

⇒混雑する道路（混雑度1.00以上）の割合が減少します。

④CO2の排出削減に寄与することが期待されます【環境負荷軽減】

⇒居住誘導を行うことで、円滑な交通が確保され、環境負荷が軽減されます。

安全安心

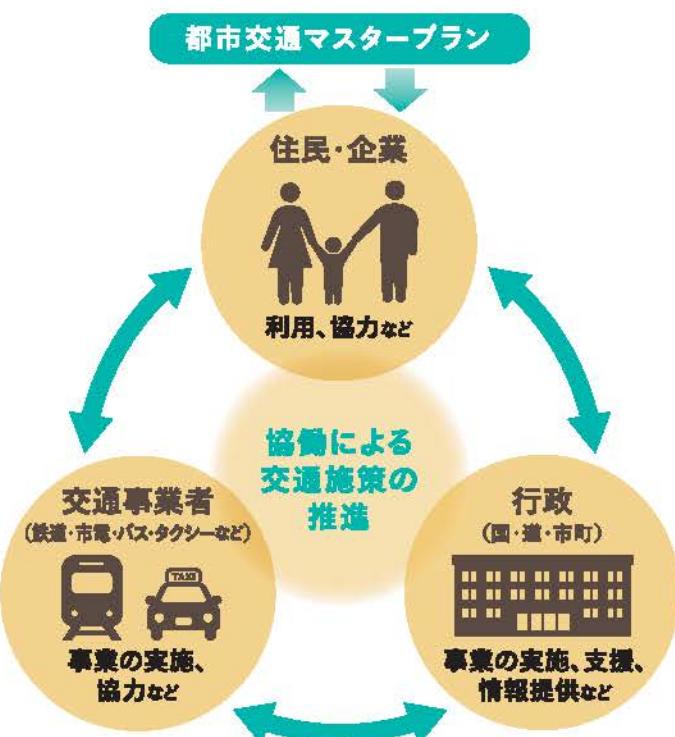
⑤交通事故の減少が期待されます【安全性向上】

⇒各種施策（特に、居住誘導・免許返納に対応できる公共交通の確保・道路整備）を進めることで交通事故が減少します。

随時点検と必要に応じた見直し

都市交通マスタープランでは、都市圏交通の課題と将来予測から導いた将来像を見据え、さまざまな施策を提案しています。今後は、都市圏で実施される交通施策が都市圏交通の将来像に近づくよう官民が協力して推進していくことが重要です。

さらに、今後は新型コロナウイルス感染症の状況や、北海道新幹線札幌延伸に向けた交通体系の変化など社会情勢の変化に応じて、計画している施策や当該マスタープランの見直しを含めて、随時必要な点検と見直しを進めていきます。





用語説明（五十音順）

ウォーカブル

街路空間を「居心地がよく歩きたくなる」空間へ再構築する取り組み。

外出率

全人口に対する外出した人の割合。

交通需要マネジメント

自動車の効率的利用や公共交通への利用転換など、交通行動の変更を促して、発生交通量の抑制や集中の平準化など、「交通需要の調整」を行うことにより、道路交通混雑を緩和していく取組み。

受援

災害時に、他の地方公共団体や指定行政機関、指定公共機関、民間企業、NPOやボランティアなどの各種団体から、人的・物的資源などの支援・提供を受け、効果的に活用すること。

シームレス

シームレスとは「継ぎ目のない」の意味。公共交通分野におけるシームレス化とは、乗継ぎ等の交通機関間の「継ぎ目」や交通ターミナル内の歩行や乗降に際しての「継ぎ目」をハード・ソフト両面にわたって解消することにより、出発地から目的地までの移動を全体として円滑かつ利便性の高いものとすること。

生成原単位

人口1人当たりのトリップ数。外出した人のトリップ数を原単位ネット、外出しない人を含めたトリップ数を原単位グロスと称する。

ゾーン30

生活道路における歩行者や自転車の安全な通行を確保することを目的とした交通安全対策の一つで、区域(ゾーン)を定めて時速30キロの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内におけるクルマの走行速度や通り抜けを抑制する。

トリップ

人がある目的をもって、ある地点からある地点へと移動することを「トリップ」といい、その計測単位としても使われる。1回の移動でいくつかの交通手段を乗り継いでも1トリップと数える。

パリアフリー

高齢者、障がい者、そのほか妊娠婦などが社会生活をしていく上で障壁(パリア)となるものを除去(フリー)すること。物理的、社会的、制度的、心理的な障壁、情報面での障壁などすべての障壁を除去するという考え方。

MaaS (Mobility as a Service)

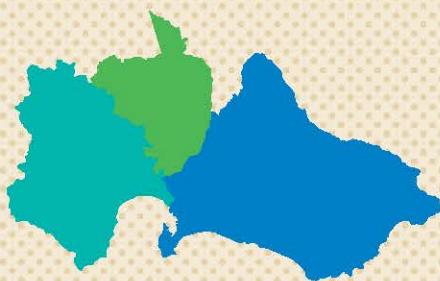
複数の交通機関のサービスを一つのサービスとして捉える考え方。具体的には、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

マスターplan

全体的な骨組みを定める計画。基本計画。

モビリティマネジメント

渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを「かしこく」使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象にしたコミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組み。



●北海道総合都市交通体系調査協議会

[実施機関] 北海道

[協力機関] 函館市・北斗市・七飯町

●お問合せ

北海道建設部まちづくり局都市計画課

☎(011)231-4111(内線 29-819)